伊藤篤太郎記
特7
162
伊藤氏之記

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162
ガラス使用

特7-112

文政丁亥新鐫

草木奇品家雅見

書畫 諸名家 揮毫 寫生

東都 補助 染井花屋 源二
撰輯 青山種樹家 金太

世間養樹之術者不可勝數而方今水野翁亦全其妙矣余好書畫且斉巡水之癖旁聞翁此樹藝皆斉金太者業種樹巧注假巡水且歳州木之奇品性頗斉雅志乃産業之餘力勒書三編名白州木奇品鏡是未有請益於余之乃与二三之門生寫

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』　請求記号 特7-162
ガラス使用

此与出沈石畫家亦与之蓋州木之名狀
載在本州及諸書然而近世枝葉生異斑
文之奇變態百出不窮枚擧是皆古人所
未嘗知而今種樹家競而辨之爭將獲異
奇種鋟獲奇種則訪諸翁仁之於種對也
雖世邈國異至異妙則眞出稟駁各雖然

遠壤之人每獲其奇品異種不能就翁而
問焉今繙閱是書則異州出果園異木生
果園其聲價區別望而可知焉是金杏所
以葺三編之大關鍵也

文政丁亥秋初　雲峰大因成寛公栗文撰

六十一老人伯陵賀瑛彝吉

図書

種樹繁育金大斤人寄其著書一部需余序文披而觀之其図写寄芳
殆并之傳神写生枝葉莊渠寔然悅
目與莊饒和草之賭模象遠者遍移
不同其傳則市隱野老之樹業無事
住活藝耳亦可以當一部時人傳矣

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162
ガラス使用

遥獲華序曰植物雖微係乎任之所
造以玉之所殖生於今而衰於後者有
於南而無於北者其類不勝何況倫奢
逐世變稱呼隨處異今據此書可以
見時運隆替可以廣人之知閲遐方之士
後世之人必有得此書以資實後者焉

唯謂種樹家按觀之小品耶
文政丁亥八月既望五山池羽孫

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』　請求記号 特7-162
ガラス使用

序

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さゝの書子をまゝ[illegible]ぶきとなるふるゝひとありがたき
御代のあゝけつふ光つ年楽井の門茅伊兵衛東地物沙を
美しゝて世よりてやさ秋ことゝ人のさゝふ不彩りまゝそ
培養みくゝ枝末のとゝ心さゝあ秋どよ草木秋
花をゝくゝとゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
あゝき枝延ゝき系ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

水仙の文殻をもはなて多葉のたるる梁井の
何某源治ぶとからをうれて生るものいとゆく状の姿めもぶ
愛月を捨てかくみとひてくみたりて庭の心雅の
るまさはつ見言の系のたるぶざるとを種のくりゝ
たるけ弦の色ぶゝぬを草はるからる殘ゆゝて
ぶのあとまとゆゝ奇品家雅見と題諸て
世をぬゝるへ体見をもはつわゝ感めゝ備ふふ
ゝゝ無ふり也

金太識

一此書ハ草木の珍品奇種を嗜好のゝよあ養生長寿の術なるを
さゝ園他ぶすぶかゝふ珍品あるゝ世界の楽ぶのたをを
ゝる手今著ゝ家の好人ゝ枝磨ハ一ゝ本と稼ゝ体ハゝの人ゝ枝
ゝ小樹に枝ゝ屈し或ハ変生ものかりて世ゝ報ひ枝るゝをして
いゝぶくゝと嘗るゝ又他ゝ求ゝ得ゝ
ゝの樹木さゝめゝゝ育ゝのの他ゝ教ゝをゝの家
他名前ぶなゝど好ハ奇品家ゝ枝ゝたり
一世ゝ珍ゝきゝ木ゝとゝその枝ゝのふぎりゝて家ゝの姿を
失ゝふゝの又ハ幸ゝ生ハ隆ゝ家ゝ枝ゝ草ハゝ枝ゝのす
一木の義曰春平器侍文法諸侯ハ某ゝ義素商君ゝハ菓子系氏
なゝゝれゝくに甲乙の書法あゝゝん牧畜工商の輩ハ低稼ゝ成て
すゝぶきゝと我ゝとゝ人ゝとゝ人ゝする心なゝき怪中漫報を其ゝまゝ次ぎゝる
のゝきゝれゝで来ゝ人ゝゝるゝ敬ゝをゝて次ゝ

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162
ガラス使用

古枝を近く植ることゝ成ぬ國中大裏梅御所
正宗つゞきの名華ゆゑんの木なゞとみな一株の孫めとして一同に
ゆゑ此同例とゆゑんゆゑ云ことのさまの言葉仕をこゝ
たゞ名ゝさもあるべき、校合の功面ざまを成なり

一　実寫は諸先生の筆力をこゝろ付ぬ仕るとは此のまつゝかゝ
とゝとゝ丹青とゝ用のざれだみどりの名こゝろ白斑黄斑の數
るもみな丁寧の面抑なるべき字をこゝと見ゆるゝ此又三本木
よこゝて一丁へて来ぐつゝと出取こゝ大来ハつゞうまゆゝ呼て例
丁寧ゆゑの面組と形代のかゝることを思ふとすゝ面倒を見
ずあゝ来なるゆゑてこゝはすゞゆゑ面倒校ゝとゝ面人の心を仕をゝる
ゆゑし畫人の失ふゝとゝだんなゝ人ゝとなる此

一　学木とゝゝ学ふゝすゝ学ふゝまゝハまゝ此ゝ斑ゝ白寫ゝゝ斑ゝ白ゝてゝの
形代ゝゝゝのゝゝとゝの多し唐ゝ一来のゝゝ白ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ来の来ハすゝゝ白ゝゝゝ赤青ゝ形ゝゝ数ハゝみゝすゝゝ白
形ゝゝゝゝゝゝゝゝ

一月の子木斑ハはさゆるをすくとしてふつうの人共斑けをつけなき事なれたひくもを上品とす凡つくりうん凡白あり憂す色し亦春出もいへふいふのきくこふき枝ともに班を生ずるをとつふるこ中といへふるをまきき所なくしたの日真黄人ようこぬけまぬてをゆゆうくれをうこ上といふ

一紅かけ斑いろりよ色にをかけもれるをまこと初秋ようの形をあらはして つんるよ時よりあ者ハ秋の木果をあらはして秋のはをこなほりつふるうん

ふう班ハをこの数のりいづくと深ようきしし又一種ぶきよふ砂ぶふのり下品也是斑ぶく班ハ冬日し或曰物産考ハ時象ハ種物ふこ

ぶくさふといへふとの名紋脈ハすぐ毎ようすぐこのんゆをりふ家

家に斑と稱するとのと用ひるこ

一漢丁金色紅辺と呼ふものハ黄白のつるんや黄色のつるん

うすき紅彩つるん間色ハ雅緊ハたてよし物をつ考品

家よきれ社ふをき迎ふぶくふると呼ふつ

とのふう来考白斑考ハ班をとして奇品多をて金家紅物と称し

赤いさくと呼ふの数夏子 漢名三白草ハ数夏子をくれ生るきをふとは

こんろ花も花咲時ハ白きふを生ずこの歌ハ子木ハ性をれ花ぶ

ぶのふたくこんすぐるこ

一漢に髮生 和こちやかと呼ふハ枝葉ハはぶやるを髮ふのと

ひふ春中より大葉小葉生ふなくあふこるこ

ふるをて大葉より厚ハ小葉ふをこよりかるこ

一黄金と稱すれいをのとう地のを数葉或ハ初秋より黄色ををして

班のくしこ子木とよるを葉班のこぶをけるふこのとこんすぐるこ

一紅彩器傳 少付ハ種松 奇品ハ春品ハ春品人ことの花ようきこの

いさかのするりのはて古人ハ水野翁の説をこはるこををまく来

したれバ人としてよこれるをあらるものから文ぶ和風のさ色ハなく

雅俗と来改識者のあるをとびたぶ奇と稱ふを代勇きをとる一とし

ゆくをを若ふるふを用ひて光女ようきこしゆこうんこを後要とし

一諸家よる珍品奇種多く好俗ようふもサかけこをやるを一家をて京

五品と限るこの余ハ僅くをのくくを設るのこをくみのせす

一草木をむさゝめるとて事毋異なるなとあり漢名のまゝ和
種樹家藝家花戸なとゝ云ふ世俗花屋植木屋や則
その家ゝとなる称号奇樹盆栽なと称物家こゝ一番
一京えんとゝ云ふ人仮称を正寫の例のゆゑ種樹家
世俗ゝと唐ゝ業しすることゝ奇木はなるゝ者ふものいきくゝ
りゝす　但事柳ゝ植木屋と花屋ゝ唐井ゝ名ぎわり
一此巻へハ御庸所近所の好人のゝ物のをとゝ其家ゝの称号
あゝらすとゝいゝのゝ或ハ仮名ゝ或ハ仮名ゝ不知てこゝみりす新のゝで
かゝふ名ゝ仮名ゝ仮名ゝ童國　此ハ仮名ゝ称あゝとゝ家ゝの名ず
かゝ仮類後毎巻見の時とゝ名ゝとゝ事ふのゝ
一凡て事毋ゝ和ゝ漢ゝ和ゝ漢ゝ和ゝ漢

ゆす　柚
九仏手柑　香櫞
かたち　狗橘　落葉
柑子　九名橘　かじたち

○和漢通名之類

肉桂
枇杷
烏薬
夾竹桃
櫻桐　古名すろのき
佛桑花　同　扶桑花

○漢名不詳類

りつこく
柿
かるもの木
八ッ手　金剛櫼
三ッ手　古名ちんのこの
ほうもとち
かくなんけ
和さんごもゆ
まさ木　牡仲一種
ぬりつこく
つこくこし
青もち
きやら木
水木
土佐水木
ごろぐるん
ふが木
さいきり

○落葉之部

あろめ桐
花丁子　以上漢名不詳
梅　以上漢名不詳　ひめこのこる　ひぐさ　風まちぐさ
かるこく杏
桃

かしハ　櫟實
ゆすらぐさ　櫻　白櫻桃　矢公多ゝゝゝ中名
ゆすら梅　一種
桑　白桑　鶏桑　桑あり
けんぽし　牡桐　金鈎梨
三ッ又　結香
くり　栗
ごち七葉樹
ほうそう　牡丹
まゆこ　衛矛　柚仲
山茱萸　和漢通名
山椒　川椒　秦椒
肝木　拆傷木
くこ　枸杞　通名
かき　柹
こまきふ　女兒茶
むくろの木　架條木
ちら　李落樹
楓樹　通名
あろめかしハ　梓
唐楓

○草之部

又世日ぐさ　牡丹
ちびすぎ　芍藥
わさびの葉　菊
ゆがらし　紫金牛
とくさ　木賊
うつゝ　洛石
かづなん　南燭子
きゝふ　一種　白菖　菖蒲
らん　蘭草　又建蘭
おとと　萬年青
あまの　溪蓀
うつゝ　田字草
あざく　小小剣
時計草　玉蕊花
なでしこ　洛陽花　唐撫子　瞿麦
ほうこ　角蒿　一種
きゝ山ろ　蛇含
さて叶　雄節花　一種
秋海棠　一名　又斷腸花　行ゆき　和漢通名
ふゝい
松ぐるん　松蘭
ぐるん　不詳
ぐるん　不詳
ぐるん　不詳

地錦　やまぜり　當歸　すくれぐさ　紫花　かさみ　駿遠　福壽艸

[illegible]

○松之部

青葉之類　男松　女松　一葉　三葉

[illegible]　萬代松　子宝　[illegible]　短葉　黒　赤　いとり

鹿の尾　仙もち　[illegible]　[illegible]　[illegible]

斑入之類　白髮　黒　赤　[illegible]　黄金　[illegible]　鹿子

五葉之類　宝島　[illegible]　[illegible]　[illegible]　高田

根岸　本所　[illegible]　金津　大阪　[illegible]　[illegible]　[illegible]　以上　青　[illegible]　同斑　月光　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

○竹之部　稲若水遮物類、葺[illegible]二百本程あれども[illegible]

斑入之類　鳳凰丹　斑　三種　寒[illegible]　養命[illegible]　水晶[illegible]　[illegible]

源山[illegible]　矢[illegible]　矢柴[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

青葉之類　大明竹　[illegible]　[illegible]　布袋　霍藤　[illegible]

[illegible]　[illegible]　四方[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

箱根[illegible]　附笹の類　斑入　児笹　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

青葉之類　熊笹　大小　根[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

○檜栢之部　檜栢[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』　請求記号 特7-162
ガラス使用

同月の類

斑入の柳　元禄二年

斑入の桜

同橘

斑入の柳

青葉之類

水柳

蘭之部

斑入之類

松崎むらく

水野さ

木原

別種

同黄金

下谷

斑入の桜

黄金柳

同

白花

黄金

附白

下立

別種

大らん黄

水野黄

大らん

不詳

爪白之類

青葉之類

松葉蘭之類

女郎

斑入の松葉蘭

青くー

白

爪白

切立奴

杜丹笠

大柳

小柳

花葉　花紅白　品及

桔梗　同斑

爪

女葉

別種　爪白二種

大ー

小ー

桔梗

蛇ー

鶏尾

金鈴

茶ー

芙蓉ー

栄ー　芳梨

杉ー

風ー

柳ー

羅紗ー

別種

萬年青之部

永島出

白黄二種

大まし

北澤　下り種　数種
小の川
仙堂
七変化
霞輪之類
鼈甲之類
青葉之類
そうのすけ
茶葉之類
すげの糸系
小萬年青類
唐の爪

志ん之川
千年じし
久安寺
みやこの糸
つるし雪
紙形　二種
かにて
豆別出
小井　唐稲
琴の爪

大坂　栗元祝入
大坂　豆元

○南天之部

庁家法
伊勢
上加
金鶏
殘雪
別種　爪白
さつま丸
なんぞん
同元ぐ出
つぐら

山鳥
ふくらんじょ
そばしま
十文字
霞輪　種数多
つぐら　上下数不
青葉
江戸出
なんさき
ねのひと

斑入之類
國頒　乃フ
細葉之類
柳葉り
國頒ぐ小奴
青葉形之類
七変化

前田
白フ　黄フ
志賀
佐橋
男義　円フ
つるめ
実八赤大小白　桃色　加バ青白

花房
滝の川　二種
寒河
ぐかぐー
七変
別種　柳ぐ

正宗　右白類
仙川
金系
市左奴
紫奴
笹系

松崎　乃フ
ちゃぐ奴
青ー
丸系

姫ー
赤ー
姫丸系

○石菖之部

疑入之類　正宗　江戸下り
茂雪
西根之類　黄金
ぎく先
新仙堂

白瀧
昼夜　以上　白フ
金花山
鈴小川
元祝ぐ

ての河
扇の雪
虎髭
鮫背
ぐ殿

雪山
金鶏
陽炎
長生殿
ぐ簾

陰陽
山吹
姿鏡
ぐし　以上　まえ
輝余

松嶽
黒龍　江キ
古鉢治　江フ
青ぐ　行沢氏
有栖川
別種　荒石菖　二種

徳
やぐら
蕨尾

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』　請求記号 特7-162
ガラス使用

奇品家雅見巻之上

永島先生ハ東都四谷ニ住して享保の頃の人也天資花木を好み奇品を愛す其始花壇植木と区を別地に種しを後盆に栽て壺木と呼先生始て尾陽瀬戸の陶工に命して盆を制せしむ是を縁付と唱白鍔黒鍔これ鉢是なり其利今に於て専用る所なり頃より奇品大に行て好人衆を結相唱和して是を玩其巨擘として世人永島先生と推崇今栄永島連これなり珍品を玩事實に先生を中興の祖と立て集る盆栽千を以算自是也珍品を玩事實に先生を中興の祖と立て集る盆栽千を以算自

培養薩園に他事を廃して老将至るも寸武詰曰先生彼兼好ら徒然艸を閲ずや先生笑答曰資朝卿の雨舎して弁ひ今秀徒の玩奇品に非ず夫秀愛る錦巣銀樹皚々として白玉月下の花に勝り雪ら冴斑斕帯紅の絣ある米秋の紅葉を愛重せざるんや問人此答に感伏して仕門に入て好人と宋朝比奈初鹿野の二氏ニ巻あり今好人の空る此人を以嘱矣

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』　請求記号 特7-162
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162
ガラス使用

朝比奈小東都四谷新邸の人なり永島先生の門に入る
好人の間ある奇品を愛すること衆に殊なり寒夜も不寐
草木の寒さを想像窖を造て舶来の種を養今の唐窖是なり
但唐窖其比は床下に造と云今の法に異なり後世改て今の法に
始て草木の性に随て寒暑陰陽の護持を
別ち及百両金の菓を洗て二心を除且當歳に花芽を着ることを考傳
萬種培養斯人最拔羣なりと云

初鹿野ハ赤坂の人あり頗好人の聞く有り斑葉種の高下を須て永久の品を愛に一日一木の霞輪桂を乞者有れども固く許さず此人懇望切ふして此木を給らざ我心是を報ずるに美人を以てせんと云主人怒を捧て曰否ニ此美人仮令西施楊妃の容色有とも我家樹を以て天女桂と洋て奇品を物ふ比喩名つくるて此人を權輿とす

僧栄傳ハ東都浜谷金王祠の別當ホして寶暦の頃の人なり奇品を
弄ぶ諸州の好人ゝ贈答ス特ホ百両金の斑と愛して後世金王斑と唱る物
有ホ至る又一年菊と辣茄の長大生育を等オホ皆其丈三尺ホ及菊
ハ黄英白龍爛燦ゝて金玉盤を捧るごとく辣茄ハ紅緑實離
離として琅玕珊瑚を垂るごとく都下爭趨て二本を見る千數
百表を隔て上樹罅ヶ其狀恐實ホ一大奇觀なりと云始ハ丈島及
崎嶇ホハ此法有関東ホハ之を長大生育の鼻祖と才培養ス長る推知

世に讃岐也と稱ふる
奇品あるまし
今世に那ふる
九牛の一毛か
時月の文

高丈余葉短二尺余
斑白雪を帶しる
ごとく年〻花を開

ふいりたうきあろ
さぬきふくけい
ちやうあんすあど こうあんげ

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162
ガラス使用

寒河ハ安房の沒の人也梅奇まと弁て
沒法の後の名珍杉を歸て其源を尋ね
後園の一葉杉と共に庭に植ふ
珍らし 元 梅 ハ 有 て 官 房 に
献ぜ り に
斜 の 沒 も 也
又 連 葉 杉 の 号 と 為 て 計 ま ふ 事 て
ひ て 独 立 し て 人 ま ち ま ち
者 を 恵 と 作 る 也

白峰書

萩生加慶字子彦ハ晋子ノ系ニ梅ノ葉ニ似タル
花生ル中ニ白ク系出ルトノ説ハ固ヨリ学者
ノ考ヘ次第ノ嗜好アリテ是ハ種樹ヲ
ス由ノ地ニ斑ヲ殺テ徐ニ殺ス新枝育リ
枝中切ニ成ル七律一ツ有リ摘句ヲ云

嫦娥手撒夏天雪
傳客剪成春後霞

猥ニ紫白ヲ点ス白紅斑ヲ徐ス
玉つゝ稚樹ノ中ニ
[illegible]

はそもそもこれ花ならぬ紅葉
ありとかの桜もまた花にはあらぬ
ものなれども小春の頃いと
くわしくまさりて紅ひまさる
面白し

未代良〻奇品家の聞え高〻家ふ百両金の奇斑を生ず始
芽を生る時黄金色ふ〜一〜葉老るふ従て後雪白ふ返て其
皎潔なる殊ふ麗〜人以て奇品〜寸故ふ凡の種〜〜る斑の種を指て
未代良斑とよぶ又一年夾竹桃のまれ斑の奇種を生ぜ〜ぶ今其栄枯
を考〜ぶ後此斑を抵敵をづさるものをさらぜ

高室を明和安永の頃寄奇品を弄し人なり後年壬辛ふ
遑なくして今ハ絶て廢せり此人高年ふして矍鑠肌膚
光潤容貌壯年のごとく或人古事を問ふ我昔盆栽を深く好て
玩弄して寄を遣る今廢せり〻ども猶日夜忘れず心の中ふ
想像して慰むるとなり此面白自老ぬなりとこそ云

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』　請求記号 特7-162
ガラス使用

相馬木徳ハ四石の人なり筆道ハ達し嵯峨帝の風を學ぶ

和歌を詠じ狂歌をもよくし寛政の初ハ奇品数種の中より

五木七木とそ持ハ勝るを拔萃して今世ハ斯て珍品出るとも載ル書

贈るを待りとくより知り申已證歌有りとて答書ハ五首七首を印刷し

て示せり是奇品ハ執心事ゆ故ハ姿情を云ハ口ハ(ちょい)ぶる生ハ捷敏も

すく貴すぐて歌ハ翁荒き先長れざてハ贅せぬ而五木ハ

大ものり沈丁花 多賀ハ九年母 名ハ楸 先下り楸 井上楠 杉谷椎 柳 花 油仝 なぎ

七木ハ

国立国会図書館 タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162
ガラス使用

呂州ハ大崖ホ住キ能淡濃を以て諸家ホ受入せらるる人以て
種樹家の幇間とも木類ハ價貴く草類の斑種を多く集斑種
を愛するの心人ホ越て果ハ草木ホ斑を好家藏の器物も皆
斑ホ塗らる物多く牛馬猫鼠雞犬の類まで斑ある必愛し人も須白の
人を喜老人と特ホ親し一日宿雨新晴青天白雲いまだ飲らぬ佳で
手を拍て喜び曰今日天氣ホ斑ホ其骨脊笑〳〵

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162
ガラス使用

佐藤昌慶ハ麻布の人なり一夜竊ニおもふらく我奇品を好ミ若干の斑種を愛セといへども其斑只黄と白とのみ紅斑なり偖これあるべき歟許の壯觀あるべ
らてきく　ちんかくてい　きひ　ざんそうづか　つめのあと　しる　くれなゐ　これまつへ
嘗聞く沈香亭の牡丹ハ貴妃が残粧の紅を以て爪痕を印せりと来春ハ必ず紅斑ハ
咲ーとも我奇品を愛ス何ぞ貴妃が牡丹ハ減んやと朱を以て蚤載ハ揉と見しハ
いちぢやう　ゆめ　つるあさ　そうこう　おもひ　うらくこと　たづさへ
一場の思夢なり翌朝一友人来て我不揣此子生を得ん偖欲せ贈ん携来りしハ
べにふけよ　こ　こ　こ

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162
ガラス使用

武州市谷安養寺の往住すして享保元文の際の人なり奇品を
抗最異物を好む又後み杉檜柏の屋を愛す當時業りのを
弄人多しといへども杉檜柏の類を弄とし今ふおいて杉最柏
の奇品を賞する蓋所人なる濫觴才一時勢の盛ふる不一列
の首長として安養寺連といふて宜哉今ハ廢せり

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162
ガラス使用

曲渕八四谷の人なり奇品を多く集手自匠を造てこれを栽諸品を愛重の餘り常ふ妻子ゐ言て曰我亡世の後必貯る所の奇品を移すべからず蔓南天を志賀ふ譲き山茶を昌慶ふ譲るとて云其後嗣よく遺言ふ後て其志の如くせと云

寿竹園ハ赤坂ふ住して享保の比の人なり盆栽を好こと風流好事なりしとぞ

園主る紫金牛ハ實ふ上好の品し竹盃を氏なりとぞ

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162
ガラス使用

淺井八四郎
新邸ふ住ス
窪田圓葉
牛砂根の斑を
生して世ふ賞
せらるゝ又此家ふ
小方年青有り
常ふ糸覆輪
を帶び稀ふ
よき物を出す　最奇品之

張馬ス
城北君
名園ふ
品最多
しと云

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162
ガラス使用

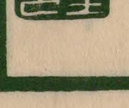
国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162
ガラス使用

大池八市谷の人なり
肥州今利の陶工なり
課て盆に竹虎の
漆付を写さしむ而
斑種に始て漆付の
盆を用ひて清て青
品を艶麗に手持
まるる四人最なり

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162
ガラス使用

山梨こうしい
人ちうこうしいの
おもしろき
こうしいの
こうしいこうしい
こうしいこうしい
こうしいこうしい

池亭ハ西の新邸に居すふ高多なる其儲を鴻池と
よぶ園林の比類なしく種物を好みもつとも
盆栽とも人後を甘ぶ物と云顔門也
常に百人の家ちよりて世家数ふ中に嗜好等
奇ちらくぶと研究して其妙ハ一理貫通也夫種物
苦心して培養ハ工夫と稽古とを多く奇品を生ず
事無因して古株枯朽ハ仕立ず葉ごとに
あり系い種物とりつて生とし花を咲く
種樹と思ハ中種物ハ書のたゆ
いとり絶ず強英の器の限ハ近く



国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162
ガラス使用

志賀宗菴ハ市谷の人最好人の聞え有り終日奇品を愛て足らず乗燭更の間を志べ常ハ東坡が高燒銀燈照紅粧の詩を誦し古人花木を愛するまゝ〻くの如し我ハ竊ハこれを比せとゝ紅其妻もまた盆栽を好これを愛一日妻宗菴ハ謂て曰君奇品を愛る妾と就興と宗菴答曰林逋梅を妻とし鶴を子とす我奇品を妻とし汝を妾とす汝が能奇品ハ不及と妾も是を聞て少恨ぜこれも深く奇品を愛るが故也

長谷川ハ千駄谷の人初鹿野の門人なり

高坂宗碩八千駄谷ニ住シ医を業とす奇品を好む事厚く毎ニ其子ニ
言て曰我草木を愛して自培養移栽ニ遑なく攀動以て營衛を循環
看て以て眼を悅し忘幾汗の快樂ぞ此由ニ常ニ精神爽快ニ
疾病ニ人其身を愛して庸医の草藥を雷む害なくんだ幸なり何ぞ功
を奏せんや種樹を以て樂とせんニハ如夫庸医舎靈貳なり医と成て冥々の中ニ
不仁を行ん事自他の養生を助る種樹家こそ仁ニして其子を以花姫と子孫今繁盛

百両金譜序

素天市撰

今や昇平の和四海に溢て四民鼓腹乃両節佳技百戯人心に常とす故に中ゝ安家の愛する花木こゝ数年に盛に風俗温恭の樂るゝ有れ共未だ九成の雷動ざる邊鄙も風望たちまち赤八来儀せり抑寛永の山茶花紫花元禄の楓享保の菊これ人ゝ寛保のころ嶋馬園文島草の二種江の産和ゝ産し人奇と称す寛暦乃頃平が師業佳なるもの百両金の値を賞ぜしも世いまゝ行きず明和の比菊実異なる奇姿を出し行きて天明に至て寛光林ゝ織なり物極まりやゝ衰ゝいまゝ寛政の頃再び花を分け貴ゝ者多ゝ古信せしも彩時ゝして又廢するゝ一枯一栄萬物の恒ゝ也ゝ杵屋来の新庫形すでもす余ゝ大隙のめき実ゝ告葉変実変の奇品嵐ゝの出て樹呉形ゝ多ゝ形状清雅室天目先生屋頌樹趙后艶の名を蒙しゝ冊ゝ寒ゝ過南ゝ漢ゝ百両金ゝ暗ゝ昭ゝ来の栄ゝ花ゝ名の実ゝ得ゝる冊ゝ和ゝ花ゝ多ゝ古ゝ名ゝ異物なきゝ也ゝ又この実ゝ人花ゝ人ゝ世ゝ栄ゝ人ゝ栄ゝ栄ゝ来のすゝ人ゝ世ゝ天下ゝ鑑の古陽ゝ

欣栄集の序ゝ有ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ載せ

一宮天南八青山の人
金玉業侍の門才多り
加主の御ゝ七ゝ〳〵ゝ
栽ゝ草木を
育し欣栄集および
百両金譜の二書を著
既稿を拵ゝて
上木せんとして
世ゝ志をあせんとあ
序而已ゝ〳〵

あをさ　ハいろき
うえぎすぢうき
ゆあのこと
かしハいろうす
ゆえぎあり

たごやさん　あをさ

わそた　かし

わそた　なござ

とさんくぐり
とさんふぐら
あひのふ
形状
通称
白

きふつけとひさぎ
あひのふ
ひぐちくま

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162
ガラス使用

窪田延寿斎ハ
朝比奈の門人なり
六番町ふ居を請ふ
家ふ奇種多し千金を
積しい一ぐも生涯一種ぐふ
鬱ぐ同好の人有て
設るる切なれぐ
只贈を楽るるを
叫ぶふおいて長者の風有り
一日客有りその蔵る所の

盆栽を見んことを乞ひ許諾して
これを看るふ客只其盆舶来ふして
品の珍らしを賞じていぐ樹ふ及ぐ
絶其意ふ適せぐ乍銭槌を執て中ふ
時世の古き高價の盆を打砕客愕て
其故を問ぐ曷ハ人作りて得易し
樹ハ天生にして得ぐ移栽ハ根を
傷んことを愁て枯せしと言く
面ふ怒をあらはすべ是ぐして
盆ふ奇品を好ぐ一ふ異鮮鉢を
求て持り又奇麗
人一家と称せしこと

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162
ガラス使用

特7
3
162

中日南持三十六種

永島ぐり椿　大野かたそ花椿　植ばかたそ楸　梓つげそ楸　隠岐かたそ楸　佐渡ぬたそ楸　佐渡ふたち
朝鮮ぶたそ花　加羅引柔花　安房花四季花　天竺椿十かた柘　小たそ南天　志賀浦の南天　柔八九たみく桂
九たそ　佐渡ぬたそ　白鳴　きたの一角柊　窪花さくたそ郷　九たそまき　永島まきたそ楸　浅井小たそ加羅引楸
道灌平京たあるくたし　柔鴨陰七ちくたそ柘　大坂天たかたそ要　君原小示たあたぐ　重傳かたそ山茶花　播磨甲つげ
志賀糸南天　果平かたそ南天　佐渡柔すくたそ南天　安養寺かたそ　吉野秋生小柔ひたそ　大坂宝持ひたそ椎
初鹿野小たそ柊

日南持三十六種

永島かたそ柳　山梨かたそ有さ七　南平丸七化椿　車ぬひやく樫　一宮かたそ七し　大坂伊勢万代や　きたそ示たあち
ぬかたそ舟ぬさくさ葉　鈴仲かたそ山茶花　志賀ぬちめん楸　文きたの九たそ楸　ぬたそ車輪柳　官重かたそぬたそ
三五ぐ計たそまき　君原殿七度ぐ山茶花　天満宮柔　佐渡ぬたそ弟のうち　浅井小たそ有きし　米平今橋たそ柊
ぬかたそ七　永島山筋ぐし　浅井かたそすぐ七　寒河九たそ桂　源氏ぬき柔ぬち　遠山九たそ　讃岐加羅引楸
ぬぐ重宝楸　大坂宝清計葉や　永島小たそ柘　大きたそ椎　大橋小たそまき　米平九たそ山茶花　大きた大通柊
浅井かたそくくしさ　讃岐かたそ柚

日陰持二十八種

椿井九たそ郷　佐渡百合たそ郷　雲峰小たそ郷　山梨たそ山ぐ柱　宗頓夜光玉青木　窪助宝寿青木　北原藤椿
原かたそ陽山ぐきみ　朝鮮ぶたそ柘　永島たそ柔す桂　舟橋かたそ楸　長谷川加羅引柔　吉右ぐ加羅引椿
松平松平たそ椿　本多かたそ郷　永島かたそ郷　一宮かたそ郷　永島かたそ青木　一宮かたそ青木
相馬かたそもしきみ　宮重せこたそ山ぐ　和田かたそ柘　島山加羅引楸　隠岐黒生楸　昌慶楸柔椿
弁之助英宮椿　津井伊たそ柊椿　金王百合柔柊

こハ翁ぬ所日待の事ゆゑ　ちゆ百万持たそ稚一ち仏教たそ　こ仏たそ高九
ゆゑ浮寄あくくと云

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』　請求記号 特7-162
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162

ガラス使用